

洪水処理分担量(案)

整備計画レベル

甲武橋地点ピーク流量(H16.10型降雨)

1/30確率 3,882 m³/s

1/20確率 3,513 m³/s

対策施設	分担量(m ³ /s)				備考
選択肢					
流域対策(1/30降雨 1/30最適化)	100 ~ 66	100 ~ 66	100 ~ 66	100 ~ 66	
学校	100% 18	100% 18	100% 18	100% 18	計画箇所の数 全体効果量 18m ³ /s
公園	100% 7	100% 7	100% 7	100% 7	計画箇所の数 全体効果量 7m ³ /s
ため池	50% 37	50% 37	50% 37	50% 37	計画箇所の数 全体効果量 74m ³ /s
水田	70% ~ 10% 38 ~ 4	計画箇所の数 全体効果量 56m ³ /s			
防災調整池	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	計画箇所の数 全体効果量:16m ³ /s
河道	2,800	2,800	2,800	2,800	
貯留施設(1/30降雨 1/30最適化)	565	819	656	1,044	
青野ダム	250	250	250	250	現行治水容量(予備放流分(1)を含む)
青野ダム	50	50	50	50	事前放流(1)により治水容量を増大
丸山ダム	42	42	42	42	利水専用ダムのまま事前放流で確保
千苅ダム	173	173	173	173	利水専用ダムのまま事前放流で確保
遊水地	50	50	50	50	県有地(浄化センター増設用地、5.3ha)
千苅ダム	×	254	×	×	利水容量を治水容量へ転用 (上記事前放流効果量からの増量分)
遊水地	×	×	91	×	遊水地C(農地、集落あり、13.2ha)
新規ダム	×	×	×	479	
合計	3,465 ~ 3,431	3,700 程度	3,600 程度	3,900 程度	

1; 予備放流 + 事前放流 = 9時間

各施設の分担量は甲武橋地点での概数値である。

洪水処理分担量(案)

基本方針レベル

甲武橋地点ピーク流量(1/100確率)

S37.6型降雨

3,984 m³/s

H16.10型モデル降雨

4,651 m³/s

対策施設	分担量(m ³ /s)		備 考
流域対策	111		
学校	12		
公園	2		
ため池	57		
水田	28		
防災調整地	12		
河道	3,700		
貯留施設	866	836	
青野ダム	220		現行治水容量
青野ダム	120 <small>1</small>	90 <small>2</small>	事前放流により治水容量を増大
丸山ダム	47		利水容量を治水容量へ転用
千苅ダム	138		事前放流案
遊水地	43		県有地(浄化センター増設用地、5.3ha)
遊水地	298 <small>3</small>		民有地(農地、集落あり)
合 計	4,677	4,647	

1; 予備放流 + 事前放流 = 12時間

2; 予備放流 + 事前放流 = 9時間

3; 遊水地A, B, C(77.3ha)

貯留施設	千苅ダム	252 <small>全部を治水転用(上記事前放流効果量からの増量分)</small>	利水容量を治水容量へ転用
	新規ダム	637	

各施設の分担量は甲武橋地点での概数値であり、かつH16.10型モデル降雨での算出値である。